

令和4年度大森ふるさとの浜辺公園における コアマモ移植実験結果 (1/2)

2.令和4年度（今年度）移植結果

(1) 移植方法

令和4年度の移植に当たっては、令和3年度の結果を踏まえ、移植株の周囲に鳥よけネットを設置し、移植地点数を1区画から4区画に増やしました。各区画には、令和4年4月20日に平均葉長17.1cm,平均葉数4.5枚のコアマモ苗を10株ずつ移植しました。

なお、鳥よけネットの効果を確認するため、1区画（下写真中、No.1）については、鳥よけネットの設置せずに実験を開始しました。



写真-1 令和4年度移植株
(1株あたり葉数4~5枚)



写真-2 移植の様子

(2) 令和4年6月28日 調査結果

移植から約2ヶ月が経過した調査時には、4区画中、鳥よけネットを設置しなかった区画No.1で移植株が消滅しておりました。鳥よけネットを設置した他3区画については生存が確認でき、葉数と葉長に成長が見られました。この結果から、移植株の生存には、外的な要因が大きく影響していることが分かり、鳥よけネットの有効性について確認することができました。

	株数 株	葉数 枚	平均葉長 cm
No.1	0	0	0
No.2	7	25	8
No.3	3	19	13.9
No.4	7	54	10.4



区画No.1



区画No.2



区画No.3



区画No.4

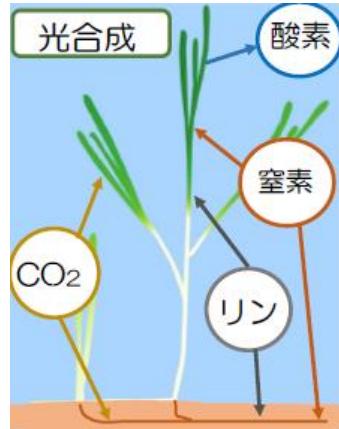


図-1 コアマモの効果
(水質浄化機能)

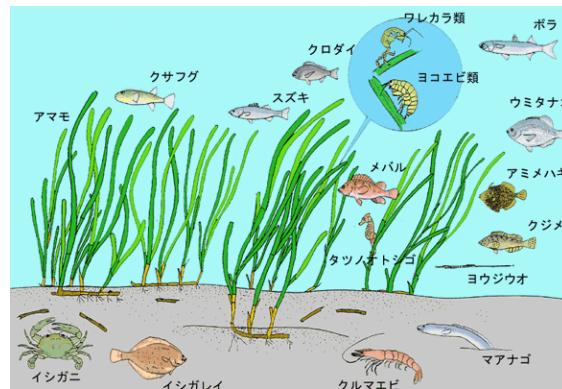


図-2 コアマモの効果 (生物多様性)
※図引用「環境省-海のゆりかごとしての藻場」



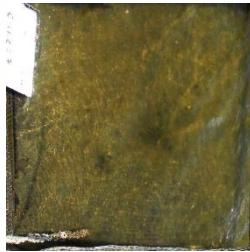
図-3 移植箇所図

令和4年度大森ふるさとの浜辺公園における コアマモ移植実験結果 (2/2)

(3) 令和4年8月9日 調査結果

コアマモにとって、夏季（8月～9月）は衰退期に当たり、葉長が短くなる特徴があります。令和4年8月の調査時には、6月の調査時と比較し、移植株が残存している区画No.2,3,4全地点において、株数の減少及び平均葉長が短くなっていることが確認されました。

	株数	葉数	平均葉長
	株	枚	cm
No.1	0	0	0.0
No.2	2	10	6.0
No.3	2	15	6.9
No.4	2	26	11.2



No.2



No.3



No.4



(4) 令和4年10月8日 調査結果

移植から約半年が経過した令和4年10月の調査時には、一番沖側に移植したNo.4のみ移植株の生存が確認でき、No.2,3の移植株については消失しておりました。この結果から移植株の生存には、移植地盤高が大きく影響することが分かりました。

また、冬季（1月～2月）はコアマモにとって地下茎を伸ばし、株数が増える時期であるため、今後の成長が期待されました。

	株数	葉数	平均葉長
	株	枚	cm
No.4	2	7	13.0



No.2



No.3



No.4

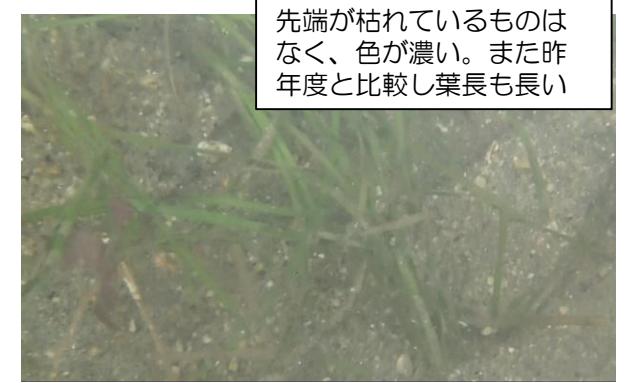
(5) 令和5年2月24日調査結果と令和4年度結果まとめ

移植から約9か月後の調査では、令和4年10月に生存が確認された区画No.4について、幼芽が複数出てきており、株数の大幅な増加が確認できました。地下茎を伸ばし枝分かれをする冬季に、順調に生育していたことが伺えます。春から初夏にかけて葉長が伸びていくため、さらなる成長が期待されるとともに、当公園におけるコアマモの定着の可能性が出てきました。

今後は、この結果を受け、移植地盤高や底質についてさらに分析を行い、引き続き当公園におけるコアマモの成育の可能性を模索してまいります。



令和4年2月（昨年度）



令和5年1月（今年度）区画No.4

